

消化管吸収：それでもトランスポーターは働いている

Gastrointestinal drug absorption: Transporters are working

加藤 将夫¹, 森下 真莉子² (¹金沢大学 自然科学研究科(薬学系), ²星薬科大学薬剤学教室)

近年、小腸・肝臓・腎臓・脳・胎盤などの主要臓器や悪性腫瘍において多くのトランスポーターが同定され、薬物動態特性と密接に関連することが明らかとなり、体内動態制御因子としてその重要性が強く認識されるに至っている。消化管上皮細胞にも多くのトランスポーター群が発現し、薬物動態に関与すると考えられているが、肝臓や腎臓における役割に比べると、未だ実験的なエビデンスが必ずしも十分ではない。特に、生体にとって異物である薬物に対して、「消化管におけるインフラックス(吸収)方向の輸送にトランスポーターは本当に関与するのか」、あるいは、「エフラックス(排出)方向に関わるトランスポーターは薬の吸収にどこまでインパクトを示すか」など、消化管における生体膜透過の研究は、まだまだ未知の部分が多いのが現状である。本シンポジウムでは、消化管吸収のうち特に生体膜透過機構に焦点を絞り、トランスポーターが薬物輸送にどこまで関与するかについて、最新の知見を交え議論することによって、消化管吸収に関わる分子メカニズムの解明に寄与することを狙いとする。